

夢のせ弾道飛行 宇宙の旅

ベンチャー企業社長
緑区の緒川さん(37)

有人機目指し試作へ

目指すは、自社製機での宇宙体験の旅。緑区有松町橋東南のベンチャー企業社長緒川修治さん(37)が、宇宙空間との境界域の高度百キロまで弾道飛行する有人宇宙機の開発に取り組んでいる。実現目標は二〇一四年。夏の飛行実験に向けた試作機製作が急ピッチだ。

(黒谷止人)

緒川さんは国内企業 孝さん(60)が研究するで、航空機開発プロシ ジェットエンジンに因エクトに参加。その後、心を持ち、宇宙への夢東北大大学院で航空宇宙を抱き続けてきた。宙工学を学んだ。幼い 事業計画では、簡型ころから発明家の父尚 で簡素な構造ながら爆



発的なエネルギーが得られるパルスジェットエンジンを改良。全長九メートル、操縦士を含め五人乗りの小型機に搭載し飛行する。宇宙機の開発計画は、昨年内であったビジネスコンテスト「N-1ケランプリ」で優勝し注目された。同様の事業は近年、商業旅行目的で国際間の開発競争が激化。米

投資家募集「初フライトは中部空港から」

国では四年前、ベンチャー企業がロケット型有人飛行機の実験に成功し、来年の運用を目指している。

現在、実物の六分の一の試作機を製作中。八月に秋田県能代市で開かれる能代宇宙イベントでデモフライトさせ、飛行特性などのデータを収集。実用機の実現に弾みを付けたい考えだ。

事業費見込みは九十億円。投資パートナーを募集中で「子どもたちに宇宙から美しい地球の大切さを認識してもらうことが、事業の目的。一号機は、中部国際空港から」と、実現に意欲を燃やす。問い合わせは、PDエアロスペースⅡ電(621)6996へ。

模型を前に、8月に飛行実験する試作機のエンジン部品などを点検する緒川さん(緑区有松町橋東南のPDエアロスペース)